

RCV

Red

Cross

Volunteer

2018. 04.

No.

69

CONTENTS

特集 1

世代を超えたつながり

特集 2

英語で学ぶ命を救う方法



世代を超えたつながり ～新たな赤十字ボランティアの形～



赤十字中央委員会委員長

増沢 純

ますざわ じゅん



赤十字ユース委員会委員長

川上 紗良

かわかみ さら

—平成29年度から赤十字中央委員会^(※1)の委員長を務める岩手県の増沢 純さん、平成28年度に発足した赤十字ユース委員会^(※2) 2代目委員長の川上紗良さん、それぞれの世代を代表する2人に、赤十字ボランティア世代間協働の可能性をテーマに対談していただきました！—

世代間にある溝

増沢…私は中央委員会として、各都道府県支部の奉仕団委員長さんが年に1回集まる会議の司会役のようなものをやっています。年齢は今61歳なので、紗良さんとは40歳くらい違うことになるかな。委員長歴は10年以上、奉仕団歴は32年です。

川上…私の生まれる前からやっているんですね！私はユース委員会の委員長をしています。ユース委員会は平成28年の夏に発足して、今やっと1年半です。私自身は神奈川県青年赤十字奉仕団(青奉)として活動して4年になります。地域奉仕団(地域奉)さんと一緒に活動する機会があるとスマホやSNSを使いこなされていて意外とハイテクなんだな！と。もっと同じ気持ちで活動できるんだろうなと思っています。(世代間にある)この溝って何なんでしょう。

増沢…溝はつくっているつもりはないんだけど、こんな風に会える機会がないじゃないですか。岩手でも、ユースと地域奉と一緒に活動する機会はずいぶん少ないからそれが溝といえは溝なのかも。支部のほうで、「地域奉とユースでなにか合同でやりませんか」、なんてあるといいのかも知れま

せんが、予定を合わせて一緒に企画するのが大変だよね。どっちかが企画してどっちかが参加する、というやり方を取れるといいのかな。

30年間の空白!?

川上…入口としてはいいかもしれない。青奉はおおむね30歳まで、と決めているところが多いんですけど、そうすると、次の活動再開が定年後、30年間の空白になってしまう。だから、ユースとシニアの架け橋になる世代がもう少しあってもいいのかな。30歳という区切りも、その内なくしてもいいんじゃないかなって思っています。

増沢…「30過ぎたていいじゃないか、一緒にやれる人は一緒にやってみようよ」ってことを提言すればいいと思いますよ。法律で決まってるわけでもないし。人を残したい、増やしたいって思っているのなら、自分たちのルールなんだから、「30歳とりました！」って本社に言っちゃえばいいんじゃない？ やっぱ仲間との絆というか培った人間関係を継続して、ゆくゆくは地元の奉仕団に参加する、というのもいいよね。

若い人が育ってこない、奉仕団の将来はないからね。

モチベーションの源

川上…増沢委員長が続けてくれたモチベーションってなんだったんですか？

増沢…私は奉仕団立ち上げのときの副委員長で。若いからやりなさいっていわれてやって。当時29かな。続けてこれたのは、自分たちがやった事に対してものすごく喜んでくれたから。その感動っていうのは普通の仕事やスポーツでは味わえないね。



この日が初対面とは思えないほど、会話が弾みます

※1 各都道府県の奉仕団代表者からなり、赤十字奉仕団の活動促進と発展のために必要な協議や研修を行う。

※2 ユースボランティアが主体的に活動し、活動にかかる課題を解決できるよう、ユース自身が必要な議論、取り組みを行い赤十字やユースへ提言を行う。

東日本大震災の経験から

増沢..被災地にいったことはありますか？

川上..2〜3年前に赤十字の会議で行きました。それまでは、救急法を習っても、不器用な自分にはできないな、災害救助は自分の分野じゃないなって思っているようなところがあつたんですが、被災地を見て、そうもいってられないな、と気持ちが切替わりました。

増沢..(3)で我々が避難所に駆けつけられたのは2週間経ってから。津波で道が瓦礫だらけで、自衛隊が道を作ってから向かいました。我々が何をしたらかという、一番近い被災地で炊き出しをしたり物資を運んだり。道路ができてからは、状況を判断しながらどこにどれくらいの人がいるのかを把握して。大きい避難所にはたくさん物資が来るので、そうではない小さいと



青奉は30歳までという区切りもその内なくしていけるといいます。-川上

何もできない。まずは、自分たちを守る、救援が来るまでの最初の3日や1週間に備えることを普及させるのも我々の役割だよ。あとは、物資を渡して、男性が女性用物資を渡していると女性性は取

ころに物資を届けていました。仮設住宅に人々が移ると、そこに行つて炊き出し等の活動をしました。我々、被災者に「頑張つて頑張つて」って言わないですか。それをあるとき怒られて。「これだけ頑張っているんだ。これ以上どう頑張ればいいんだ」ってそのときから、「頑張つてね」は使わなくなりました。「元気でね、また来るよつて」という言葉にして、頑張っている人に頑張つてって言っちゃだめなんだって、そういう嘆きつて言うかね。そこはものすごく勉強したね。

川上..首都圏に住んでいる私たちは、首都直下型地震に備えて動けるボランティアになろうと防災のことは学ぶけれど、その後の復興をどう支えていったらいいかという話をしていないってことに気がつきました。

増沢..我々の経験から言うと、仮に災害が発生したとして、

りに行きづらいんですよ。だから、そういうことを考えて女性を配置しなさいって、そういうことをきちつと伝えられるのも我々の立場だと思いますね。

世代間の協働は可能か？

増沢..空白の期間を解消する糸口の1つとして、年齢の区切りをなくす他に、青奉OB OGとして活動に参加してもらうことが出来ると思います。ユース世代の人つてお金がないじゃないですか。でも働く世代つて、少し余裕が出てくる。そういう人たちと年に1回でも2回でも一緒に活動をしてみる。ワゴン車を持って

みたいなの思つても足がないんですよ。車を出してもらえないのはありがたいですね。

増沢..「今度岩手に行こうぜ」「岩手のどこに行くのよ」つてなつたときに連絡取つてくれたら、段取りを助けてあげたりもできるしね。

川上..集まりやすさで言うと、合同で研修をすることが身近なところで協働を始められる機会だと思えます。

増沢..ブロックでも委員長会議をやるんだけど、どうせなら、ユースと一緒にやってもいいんじゃないかって思うね。最初は別々にやって、どこかの時間で合体してやる。そういうきつかけの場があつたほうがいいんじゃないかな。

増沢..問題点を提起しなくてもいいから、こんなことをやってます、くらいの話から始めて、徐々に掘り下げて、じゃあコラボしてみましようか、と発展させていく。

川上..中央委員会とユース委員会事例と一緒に作つてもいいですね。

増沢..そういうことをやってみたいところを探してね。実際コラボできなくても、そういうことを考える、あるいは、メニューを作つておけば、どこかで実現するかもしれない。ユースの会議を岩手でやってもいいんじゃない？被災地を見てもらつたり語り部の話を聞いてもらつたりするのもいいんじゃないかな。

川上..では、まずは話をもちよるところから！

増沢..ユースとシニアの架け橋になる。お互いのラリーをしたいよね。



ユースとシニアの架け橋になる、お互いのラリーをしたいよね。-増沢

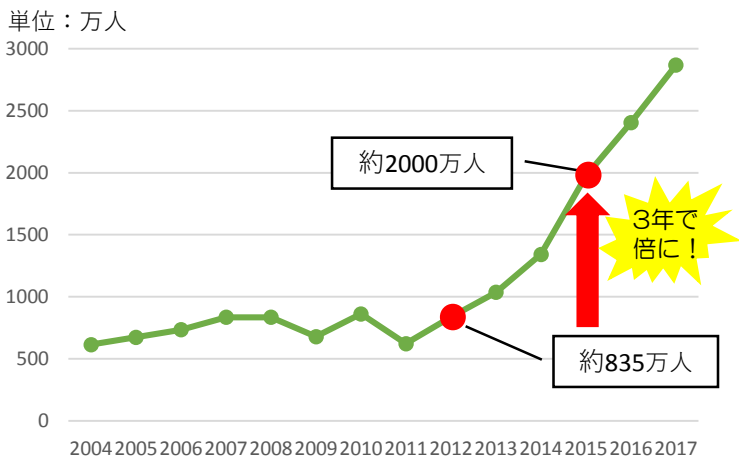


対談終了後の笑顔。ありがとうございました！

英語で学ぶ命を救う方法

2017年、日本を訪れた外国人観光客の人数は、約2800万人。前年比で約19%増加しています。2013年に1000万人を超えてから、5年連続右肩上がりで伸び続けています。もし、目の前で外国人の方が倒れた時、あなたはどうしますか？救急法を知っていても、言葉が通じないために、処置をためらってしまうかもしれません。今回は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、訪日外国人の数が増加している東京都支部で、ニーズが高まってきている英語で救急法を実施するという「スキルアップ研修」取材しました。

訪日外国人数の推移



出典：日本政府観光局ホームページ

研修1日の流れ



「いざという時」のコミュニケーションがとれるように練習していきましょう。

13:00
開会式

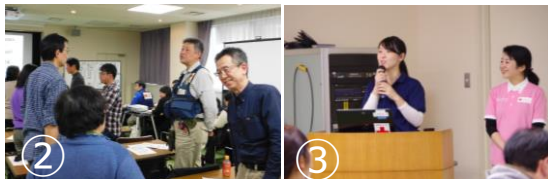
まずはスタッフの方々も英語で挨拶にチャレンジ。
訪日外国人の増加に伴い、英会話の必要性など、今回の研修の趣旨を説明。
スタッフとして赤十字語学奉仕団員も協力し、参加者をサポートしました。

緊急時のワンポイント英会話

- ・ Please call a doctor. (医者を呼んでください。)
- ・ We need an ambulance right away. (救急車をすぐに呼んでください。)

13:05
英会話

- ①Monday、Tuesdayなどの曜日やSummerなどの季節を表す英単語をスタッフの方のあとに続いて発音。
- ②隣同士で発音練習をしながら、日常で使える英語を確認。
- ③スタッフの方々が流暢な英語で分かりやすく発音していきます。



月に関すること
英文: May
読み: メイ
意味: 5月

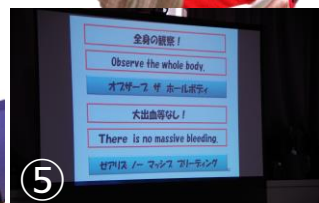
発音が分からなかったら、聞いてくださいね。



14:00 英語での心肺蘇生法とAEDの実習

- ④外国人の方と協力して救命処置を行うことを想定して練習します。
- ⑤目の前のスクリーンで今行っている動作の英語表現が表示されます。
- ⑥救命の手法の英語表現を確認しながら救命処置を学びます。

3人1組となって協力しながら、繰り返し英語での救命処置を練習します。



参加者の声

外国人の方から話しかけられても逃げないようにします。これからも英語での講習をやってほしいです。(女性)

私たちが救急法の技術で助けるのは日本人だけではありません。英語の講習が広がるということが大事だと思います。(女性)

身の回りで、外国人の方と出会うことが多くなった。実際に外国人の方が倒れていたら、助けてほしい。(女性)



英会話と実技を交えてできたので、今後の指導の幅が広がります。(男性)

海外の方にも少しは話しかける勇気を持つてました。(女性)

中国語、韓国語での講習もやってほしい。(男性)

この場面、英語で言うと？

①胸骨圧迫を行う時



Begin chest compressions.

ビギン チェスト コンプレッションズ
(胸骨圧迫開始)

②人工呼吸を行う時



Mouth-to-mouth breathing.

マウス トゥ マウス ブリーシング
(呼気の吹込み)

③傷病者に電極パッドを貼り、電気ショックを行う時



Everybody, please stay away.

エブリバディ プリーズ ステイ アウェイ
(みんな離れてください)

取材を終えて

戸惑いながら参加していた受講生も、最後の方では、自信を持って救命処置の動作を英語で行えるようになっていました。少しの知識と勇気があれば誰でも人を助けることができるようになると思います。今回の研修がその勇気を持つきっかけになり、ボランティアの輪が広がってほしいと思いました。

Columns.. 研修の紹介

若者が基本原則の体現者となる！

3月2日～6日、日本赤十字社本社にて、「赤十字7原則に関するセミナー」が開催されました！このセミナーは、国際赤十字・赤新月社連盟が開発したYouth as Agents of Behavioural Change (YABC※)のツールを使って行なわれ、アクティビティを通して頭で理解するだけでなく赤十字基本原則を体感しながら学びます。研修受講生は今後、YABCのピア・エデュケーターとして、自己の行動変容によって周りに良い影響を与えていくことで、地域でのロールモデルとしての役割を果たしてゆくことが期待されます。今年は新たに13名のピア・エデュケーターが誕生しました。

※Youth as Agents of Behavioural Change (YABC)は、若者の持つリーダーシップを通して、非暴力と平和文化の普及に貢献することを目指しています。



↑「ラベル付け」のアクティビティ

←このアクティビティでは、「ホームレス」「犯罪者」「同性愛者」「芸能人」など自分ではわからないようにラベルが貼られ、街中でその人たちを見かけたらどのように反応するかを体験するもの。いかに自分たちが偏見を持って人と接しているかが行動となって現れます。「偏見を持たない」ことは主に公平の原則に当てはまります。自分たちの普段の行動が原則に反していたか、また、どうしたら基本原則を「体現」できるのか考えを深めました。

救急法指導員スキルアップ研修会を取材させていただきました。訪日外国人の増加に伴い、このような外国語での講習が必要になっていくと思います。私も、救急法を受講したことがありますので、いざという時に、勇気を持って”TRY”したいと思います。(鈴木)

今回は取材には参加できませんでしたが、対談を読んで、世代間のつながりがこれからのボランティア活動において重要なテーマになってくると感じま

した。世代間交流の機会を設けることでボランティア活性化の第一歩に繋がると思いました。(菊地)

今号からRCVに携わらせていただいています。表紙のリニューアルをする中で目に止まった言葉がありました。「赤十字ボランティアのための情報誌」。RCVには赤十字ボランティアの活動をより良くするための情報がたくさん詰まっていると思います。ぜひ読むだけでなく活動にも役立ててほしいです。(川上)

菊地さん、川上さんは今回、表紙のリニューアルも担当してくださいました。新しくなった表紙のRCVもどうぞよろしく願いいたします♪



事業なくして広報なし 第10回 もっとクロス！大賞

2月22日 日本赤十字看護大学にて、第10回もっとクロス大賞最終選考会が開催されました。今年は広報・PR部門、Good Activity部門、ボランティア部門、ファンドレイジング部門の4部門に分かれて審査がされました。

「もっとクロス！大賞」とは全国の都道府県支部、施設が行っている広報活動を全国で共有し、さらに広報スキルを磨いてもらうことを目的とし2008年に始まった表彰制度です。

最終選考会では、一次審査、二次審査、そしてWEB審査を経た各部門の代表者によるプレゼンテーションが行われました。ボランティア部門代表は、大阪府支部の「'17食博覧会・大阪」の取り組みです。食博覧会でのブース出展を通して「東日本大震災を忘れない」ことの大切さを来場者に伝えました。これは、大阪府支部だけでなく、東北3県支部や他の組織を巻き込んだ事例です。当日のプレゼンテーションは、大阪ならではの楽しい掛け合いがなされ、笑いが絶えませんでした。

このほかにも、点訳奉仕団による点訳の出前講座、献血者を増やすため貧血防止メニュー、ユースが中心となって活躍しているRCYリポーターなど、ボランティアと職員一丸となって協働している姿が印象的でした。

赤十字ボランティアへの参加、登録についてのお問い合わせ

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、“苦しんでいる人を救いたい”という思いを行動に移してみませんか？

赤十字ボランティアへの参加は日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

WEBページで

日本赤十字社

検索

<http://www.jrc.or.jp/volunteer>



FacebookやTwitterでも逐次情報を更新しています！



○編集・発行

事業局 パートナーシップ推進部 ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課

電話：03-3437-7083(ダイヤルイン) ホームページ：<http://www.jrc.or.jp>